

地方の若い人材を発掘・育成する経済産業省の補助事業「AKATSUKIプロジェクト」。「熊本版未踏的プロジェクト IPPO（一歩）」の3期目となる今年度は、採択された8組が各自のプロジェクトに挑みました。4回連載で2組ずつ紹介します。



熊本版未踏的プロジェクト IPPO

～IT人材育成の6ヶ月～
2026.2/8(日) 7:00～7:30

本格的な研究・開発に挑戦！ プロダクト支援コース



自律航行できる水上ドローンを開発。一台で水底の撮影と給餌を実現します



ケースに餌を入れると、モーターの回転により水中に散布。給餌量の調整も可能

熊本県は全国有数の車エビの養殖量を誇るものの、日本では食用エビの約9割を輸入に頼っている現状を知った熊本高等専門学校（熊高）の4人。養殖現場の負担を軽減し、エビの国内生産を盛



熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科5年
加賀陽菜乃さん、城太智さん、大山翔生さん、重松知樹さん

り上げたいと応募しました。「水中のエビの居場所は把握していない」「給餌やヘドロ除去の清掃に時間と労力がかかる」「養殖は長年の経験と勘が頼り」など、エビ養殖業者から生の声を聞き、広大な養殖場での課題が浮き彫りに。そこで現場の負担軽減を目指し、自律航行ボートを用いた水上ドローン「うきうき養殖くん」を開発。養殖池を可視化し、赤外線カメラでエビの生息エリアやヘドロの位置を把握することで、給餌や清掃の負担を減少できます。今後も、より鮮明な撮影方法や荒天時の影響などの検証を進めてく予定です。

プロジェクト名

G N S ロボットボートを用いた
水産養殖支援システム「うきうき養殖くん」の開発